

れきしみち

2. 特別展「1964－東京五輪がもたらしたもの－」
4. 收藏品紹介「スチームエンジン設計図－安城にあった山丸製糸所－」
5. 新連載「安城歴史散策 風を感じて歴史を歩く」
6. 特別展関連イベント&ナイトミュージアム
7. 安祥文化のさとではたらく人たち・グッズ紹介
8. 夏休み行事紹介、市民ギャラリーよりお知らせ

2019.07
No.113



ナイトミュージアム 博物館ナイトツアー



特集：1964－東京五輪がもたらしたもの－

写真中央：聖火ランナー第44区正走者への引継ぎ



弥厚銅像（和泉町 弥厚公園内）



夏休みは歴史博物館・埋蔵文化財センター・市民ギャラリーに行こう！

歴史博物館 (申込み・問合せ) 安城市歴史博物館 ☎0566-77-6655

■夏休み自由研究相談会

歴史に関する自由研究のテーマ決めや調べ方の相談、参考になる本などの紹介をします。

(日時) 7月26日(金)・27日(土)・28日(日)

10:00～15:00

(場所) 歴史博物館エントランスホール

(対象) 小学3年生～中学3年生まで

※相談時間は最長30分、人数が多い場合は待ち時間が発生することがあります。

※当日先着順で受付をしますが、事前に日時を予約することもできます(7月13日(土)9:00から電話受付)。希望する日時、調べたいことなどを電話で歴史博物館へ。



■体験講座「オリジナル風鈴づくり」

ガラスに自由に絵を描いて、オリジナルの風鈴を作ります。

(日時) 8月24日(土)

①10:00～12:00 ②13:00～15:00

(場所) 歴史博物館 体験学習室

(定員) 各25名

(参加費) 500円(材料費含む)

(申込み・問合せ)

8月6日(火)9:00から

電話で歴史博物館へ。



埋蔵文化財センター 夏休み子ども考古学講座 (申込み・問合せ) 6月25日(火)9:00～電話にて文化振興課文化財係 ☎0566-77-4477で受付開始

■家族で博物館めぐりINやきもの歴史

埋蔵文化財センターを出発して、とこなめ陶の森資料館、東浦町郷土資料館を学芸員の解説付きでめぐります。夏休みの自由研究にぴったり!やきもの歴史スタンプラリーの参加者は、1日で3館賞が達成できます。

(日時) 8月10日(土) 12:30～17:00

(場所) 市民ギャラリーエントランスに集合

(対象) 小中学生家族

(小学生は保護者同伴、中学生は一人での参加も可)

(定員) 18名(先着順)

(参加費) 300円

■縄文時代の石器づくり

縄文人も使っていた下呂石やサマカイトで矢じりやナイフを作ってみましょう。

(日時) 8月11日(日) 13:00～16:00

(場所) 埋蔵文化財センター 創作実習室

(講師) 水野裕之氏

(名古屋教育委員会事務局 生涯学習部文化財保護室)

(対象) 小学4年生～18歳

(定員) 20名(先着順)

(参加費) 300円



■古墳時代の鏡づくり

弥生時代から古墳時代の青銅製品や銅鏡について学び、低融点合金を使って、ミニチュアの内行花文鏡をつくります。

(日時) 8月12日(月・振休)

13:00～16:00

(場所) 埋蔵文化財センター 創作実習室

(対象) 小学4年生～18歳

(定員) 10名(先着順)

(参加費) 300円



安城市民ギャラリーよりお知らせ

市民ギャラリー企画展
「光の切り絵展」



照らす光でその姿を現す「光の切り絵」。光の切り絵作家・酒井敦美氏のよりすぐりの作品を紹介。

【開催期間】 8月27日(火)～9月1日(日)

【時間】 9:00～17:00

※ナイトミュージアム期間

(8/30～9/1)は夜20:30まで開館

【観覧料】 300円(中学生以下無料)

市民ギャラリー企画展
「花のいろどり 草木のみどり」



杉浦桂子(樹)

市民ギャラリーコレクションの中から、植物をテーマに描かれた作品を紹介します。

【開催期間】 9月27日(金)～10月6日(日)

【時間】 9:00～17:00(最終日は16:00まで)

【休館日】 月曜日

【観覧料】 無料

安祥文化のさと

安祥文化のさととは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

【全館共通事項】

住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地

休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

URL / <https://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館

安城市歴史博物館

開館時間 / AM9:00～PM5:00

TEL : 0566-77-6655 FAX : 0566-77-6600

安城市民ギャラリー

開館時間 / AM9:00～PM5:00

TEL : 0566-77-6853 FAX : 0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター

開館時間 / AM9:00～PM5:00

TEL : 0566-77-4477 FAX : 0566-77-6600

安祥城址公園

TEL : 0566-71-2244



写真「国道1号線を走る聖火ランナー」(本市蔵)

聖火ランナーは、副走者二人、随走者二〇人で走ります。第四区間から第四区間の聖火ランナーは安城市が受け持ち、三日の午前十二時十七分頃、国道一〇号線の豊臣機工前で聖火を引継ぎました。第四区間は副走者以下全員が女性によって編成されていたことから、新聞でも大きく取り上げられました。その後、第四区間は現在の新安城駅付近からスタートし日本水産前まで、第四区間は尾崎町のバス

停までそれぞれリレーされました。聖火ランナーを見るために国道一〇号線沿いは観客であふれかえり、屋根で見物するほどの盛況ぶりでした。

昭和三十九年(一九六四)は、「第一八回オリンピック東京大会」(以下、東京オリンピック)が開催された年です。そして日本が太平洋戦争の敗戦から奇跡の復活を成し遂げ、先進国の仲間入りを果たしたことを世界中にアピールした年といえます。

戦後の日本は、GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)の占領下のもと、民主主義国家へと生まれ変わりました。昭和二十五年に勃発した朝鮮戦争の特需を追い風にして日本経済は立ち直るきっかけをつかみ、その後立て続けに起こった神武景気や岩戸景気といった好景気により高度経済成長期に入りました。

そのさなかの昭和三十四年、念願ともいえるオリンピックの東京招致が決まると、開催に向け東海道新幹線や高速道路網などのインフラの整備が急ピッチで進みました。東京オリンピックの開会式や競技の実況放送は、アメリカの通信衛星により世界四五カ国で放映され、カラーテレビの普及につながりました。

また、この頃から「消費は美德」の空気が強まり、消費型の社会へと大きく舵を切る契機ともなりました。

● 1964年とは どのような年であったのか

十月一日、東海道新幹線が開業しました。日本国有鉄道(以下、国鉄)が三八〇〇億円の工費と、当時の最新技術を注ぎ込み完成させたのです。午前六時、「ひかり1号」が東京駅を、「ひかり2号」が新大阪駅をそれぞれ出発しました。ひかり1号は東京―新大阪間五・五キロを四時間で走破しました。従来の東海道本線を走る高速電車特急「こだま号」の東京―大阪間六時間五〇分を上回り、当時の常識をくつがえす、「夢の超特急」が実現したといえます。



東京オリンピックポスター(公式2号ポスター)(本館蔵)

さかのぼること昭和三十一年、東海道線増強調査会が設立され、将来の東海道本線の輸送量想定や、輸送力増強方式等が検討されました。輸送力の増強は緊急と報告され、その後新幹線の早期着工が承認、昭和三十四年四月には新丹那トンネル熱海口で起工式が行われました。安城市の広報には昭和三十五年二月の時点で建設地の杭打ちが始まっていること、用地買収交渉を進めること、十一月から本格的な工事に着手する予定であることが記載されています。

東海道新幹線は着工からわずか五年半で開業にこぎつけました。新幹線は大量の旅客を高速、そして安全に輸送するという日本人が生み出した技術開発として、高度成長期を象徴する存在となったのです。

● 一九六〇年代の暮らし

東京オリンピックの誘致が決まった当時の日本は、高度経済成長期のさなかでもあり、インフラ整備や都市改造等が急速に進みました。都市整備とともに人々の日常生活も変

● オリンピック、その実現のために

現在でもオリンピックを開催するには莫大な資金が必要になります。大会資金を公費のみに頼るのではなく、国民一般の支援により賄うことが、東京オリンピックの意義を一層深められるという考えのもと、昭和三十六年一月に「財団法人東京オリンピック資金財団」(以下、資金財団)が設立されました。そして入場券収入などの自己調達分以外を、資金財団と国、東京都の三等分にして資金調達を行うことになりました。



オリンピック定期預金ポスター(信用金庫)(東京都江戸東京博物館蔵)

しかし、資金財団単独での調達が難しいため、オリンピック東京大会の準備等のために必要な特別措置に関する法律が施行されました。結果、郵政省や専売公社の協力が得られ、二〇一〇円の募金、割増金付定期預金、宝くじ、記念品の販売など、様々な募金活動が行われ、資金財団は五九億円余りの資金を調達することができました。

このころ、安城市域も大きく変化した時期でした。地域の工場誘致は戦前から行われていました。しかし伊勢湾台風後に市は財政赤字に陥り、昭和三十五年より財政再建五カ年計画をたて、工業都市化を積極的に進め、高度経済成長の波に乗り発展していきました。かつて安城市は日本デンマークと呼ばれ、現在でも農業王国と思われがちですが、東京オリンピックが開催された頃は工業が産業の中心になっていました。

安城市の工業都市化は人口増加にもつながり、都市部の公団住宅と同様に核家族化も進みました。世帯の構成は昭和三十五年を境に急速に小規模化し、三人・四人世帯が増加していきます。加えて昭和四十年代になると毎年二〇〇〇人から三〇〇〇〇人の人々が安城市へ転入してきます。オリンピック後はそうした人々を受け入れるため、農地から宅地への転用が進みます。団地造成もあり、住宅用地の増加は工業用地をはるかに上回りました。

昭和三十八年には、市内でも電気洗濯機、テレビ等はこの家庭でもみられるようになり、冷蔵庫も普及し始めていました。情報や商品の流通が都市部と同じとはいえませんが、地方の安城市でも、都市部と同じような生活に変わりました。今の生活に欠かせない様々なものがこの時期に登場したのです。



昭和41年～44年に建設された依佐美団地(「郷土読本あんじょう」より)



東海道新幹線開業記念切符(鉄道博物館蔵)



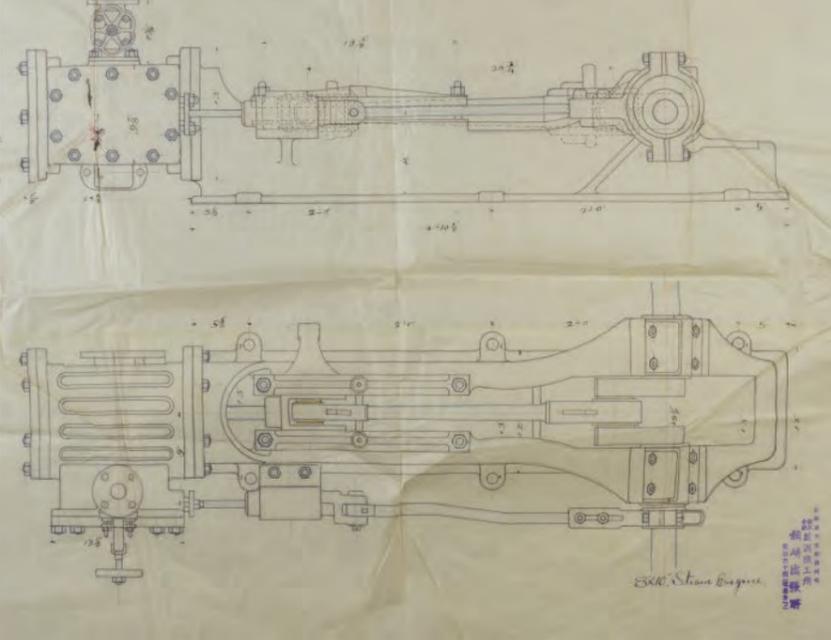
※写真はイメージです

特別展開連行事
● 記念講演会
「1964年東京オリンピックが残したもの」
[日時] 7月20日(土)14時
[講師] 松林秀樹氏
(平成国際大学 スポーツ健康学部 准教授)
● 展示解説
[日時] 7月28日(日)14時
8月18日(日)14時
9月1日(日)19時
● 展示関連イベント
「1964年にタイムスリップ! 懐かしの体験コーナー」
[日時] 7月20日(土)～9月1日(日)
[内容]
■ 鉄道ジオラマ
■ 1964年撮影コーナー
■ フォトフレームづくり
■ 謎解きクイズラリー
※詳細は6ページをご確認ください。

収藏品 紹介

文責・水谷谷子

スチームエンジン設計図 —安城にあった山丸製糸所—



写真左：スチームエンジン設計図

明治五年（一八七二）官営工場として設立された群馬県の富岡製糸場では西洋技術が取り入れられ、その後各地で製糸工場が誕生しました。養蚕業が盛んで製糸工場の多い長野県・群馬県に並んで次第に愛知県も台頭してきました。

明治後期、愛知県下では一宮の片倉製糸や岡崎の三龍社など女工を八〇〇人以上抱える大規模な製糸工場が登場します。豊橋では小規模な製糸工場が一〇〇か所以上集中する一区域もありました。そんな中、安城では明治四十四年六月に安城山丸製糸所（以下山丸製糸所）が創業します。場所は現在の桜町、市役所付近でした。最盛期には女工が七〇〇〜九〇〇人いる県下でも有数の大規模工場でした。

山丸製糸所は、本拠地を今の長野県須坂市に置く山丸組の支店工場でした。株式会社ではない山丸組は個人経営として「全国にならぶものなし」といわれていました。海外輸出用生糸を大量生産しており、安城の他にも現在の埼玉県さいたま市大宮区に大規模工場がありました。山丸製糸所は当時の安城町が誘致しましたが、詳細は不明です。

製糸工場に必要なものは水と熱と機械を動かす動力でした。水は明治用水東井筋から引いたと思われる。また当時繭を煮る大量の熱エネルギーと動力には蒸気（汽缶）が主に使用されました。操業した期間がわずかに二〇年余りの

山丸製糸所に関する資料は現在ほとんど残っていませんが、収藏品の中にスチームエンジン（汽缶・蒸気機関）の設計図があります。

設計図は新潟鉄工所柏崎工場（出張所）で作られたものです。新潟鉄工所は当時石油掘削の機械や車輛のエンジンを主に手掛けていました。その中で製糸用として小型横置式の汽缶汽機を柏崎工場で作っていました。収藏品の設計図は上部が側面から、下部が上からみた図です。長さ二メートル弱、幅は三〇〜五〇センチ弱です。写真では読みにくいですが、実際にはインチャやフィートで記しています。

大正八年（一九一九）発行の『安城町誌』には、山丸製糸所の動力は蒸気機関と電力とあります。前述の設計図が実際に使用されたものか確認はできませんが、蒸気機関を備えていたのは確かであり、近代安城の「エネルギー革命」の証拠といえるのではないのでしょうか。また安城町に岡崎電灯会社の支所が設立されるのが山丸製糸所を誘致した明治四十四年であり、電力の導入は早かったと思われまます。

安城では愛三製糸を始めその後、大正十年前後に女工一〇〇人を超える帝國製糸・三州社や女工二〇人以下の松坂製糸場・大五製糸場も同じ頃に創業しました。今は姿をかえてしまった花ノ木町には、愛三製糸や松坂製糸場などがある

り、山丸製糸所とも近く、この周辺は女工の町となりました。山丸製糸所で働く女工の多くは長野県から来ていました。

山丸製糸所は神戸に本社を持つ神業生糸株式会社横浜支店に生糸を卸していました。関東大震災まで輸出生糸はすべて横浜港から決められていたためです。

昭和初期当時、横浜入荷高ではトップの会社でした。また本店山丸組が卸していた横浜の渋沢商店へも一部卸していたようです。渋沢商店は、銀行の父と呼ばれた渋沢栄一のとこ、渋沢喜作が立ち上げた店でした。

しかし、輸出が中心だった山丸製糸所は、アメリカ経済の動向と関係していたため、昭和四年（一九二九）の世界恐慌の影響を受けます。また生糸はストッキングの素材として需要がありました。絹（レーヨン）が台頭してきたことも製糸業が衰退する要因となりました。昭和五年に本店山丸組が倒産し、昭和七年には山丸製糸所も撤退したのです。

大宮にあった山丸製糸所の跡地は現在、市民会館や製糸所由来の山丸公園と名付けられ、市民の憩いの場となっています。安城にあった山丸製糸所の跡地も公園となり、後に一部が運動競技場になりました。さらにその後運動競技場は廃され、市役所・市民会館が建てられました。しかし、かつてここに広大な製糸工場があったことを知る人はほとんどいなくなりました。

安城歴史散策

文責片岡晃（安城市歴史博物館館長）

風を感じて 歴史を歩く

— 文山小学校区① —

ごあいさつ

私は、本年四月当館に着任しました。今回よりこの安城歴史散策のコーナーを担当させていただきます。元教員の経験を活かし、歴史を初めて学ぶ子供の目線にたって、「風を感じて歴史を歩く」というテーマで記述します。

第一回は最初の赴任校、文山小学校をスタートとします。広い学区に加え、郷土学習の素材が豊富な場所ですので、第一〜三回をかけて文山小学校区を歩くことにします。



★赤色の矢印のコースを歩くと約2.3kmの距離がある

『いずみの野のほまれ』

文山小学校の子供たちは、この読み物で、郷土の偉人を学びます。「文武の道」で石川文山を、「まぼろしの用水路」で都築弥厚を、そして、「青田の風」で岡本兵松を紹介しています。今回は、和泉町に残る石川文山、都築弥厚に関する史跡を訪ねます。



『いずみの野のほまれ』

文山苑（石川文山邸址）

文山小学校の正門を左折し、西に向かいます。最初の交差点を右折し、しばらく進むと右手に文山苑が見えてきます。石川家は、文山の曾祖父以来の三河武士で徳川家（松平宗家）に仕え、家康の関東移封までこの地に住み、文山苑にその邸址があったと伝えられています。

文山苑は平成八年（一九九六）に「愛知県ふれあいふるさと事業」の補助を受けて開苑しました。曾祖父の屋敷（中世城館）からみると、二〇分の一程の面積です。年間三万人余が訪れる文山苑は、主に文山晩年の隠棲の地、京都詩仙堂を模し、庭も美しく和風空間の魅力にあふれています。庭園東端の文山の銅像は、昭和二十五年（一九五〇）、和泉町の有志により、泉小学校内に建てられたものです。昭和四十六年、泉小学校・城ヶ

入小学校の統合、文山小学校設立に伴い、銅像は文山公園（現文山苑の一部に含まれる）に移転されます。文山苑が完成されるまで、毎年、文山小学校の児童が定期的に公園内の清掃に取り組んでいました。

文山の銅像と並んで立つ「文山先生旧里碑」や、都築家一統による文山百五十回忌法要の寄せ書き等の史料から読み解いていくと、文山邸址は伝承の地であって、本龍寺内にあったという方が有力ではないかという説もあります。



文山銅像（文山苑内）

本龍寺

文山苑の西にある本龍寺は、明治用水開削の功労者、都築弥厚に縁が深い場所です。寺には都築弥厚の墓があります。弥厚は、この本龍寺に山門や土塀を寄進したと伝えられています。また、寺の北側に、かつて弥厚の邸宅があったとされています。

文山文庫

本龍寺を出て、和泉町の町並みを眺めながら北東に進み、文山文庫に向かいます。途中、家々の軒先には、お地藏さん等の石造物がたくさん見



弥厚銅像（弥厚公園内）

和泉八剣神社から弥厚公園へ

文山文庫から半場川方面に向かって歩いて行くと、右手に和泉八剣神社が見えてきます。地域の鎮守社として造営されたこの神社は、都築氏奉納の絵馬で有名です。また、昭和十九年頃まで雨乞い行事が行われた珍しい事例もあるとのこと。そして、神社正面鳥居より南に細い道を抜けると、弥厚公園に出ます。弥厚の銅像は、大正八年（一九一九）に建立されましたが、戦時中の金属回収で取り払われ、昭和二十六年再建された二代目のものです。半場川の開析谷を見下ろす場所に立つ、威風堂々としたその姿から、台地を拓き、国や民を潤すという夢とその実現に奔走した強い意志が偲ばれます。

歴史博物館、市民ギャラリー、埋蔵文化財センターには一年を通して多くのお客様が訪れます。そのお客様が気持ちよく過ごせるよう、また職員が仕事に集中できるよう、丁寧な仕事ぶりで環境美化に務めている清掃員の仕事を紹介します。

Q1 どんな仕事内容ですか
展示室やエントランス、廊下、各部屋の床清掃やトイレ清掃、手すりなどの水拭き、建物付近の掃き掃除など、館内・屋外の美化活動、清掃活動に当たっています。
ここは歴史の貴重な資料やギャラリーの美術作品などが身近にある場です。その場がきれいに保たれるよう、プロ意識を持って仕事をするようにしています。

Q2 気を付けていることは
展示を見て楽しんでくださるお客様に邪魔にならないように努めています。さらに博物館、市民ギャラリー、埋蔵文化財センターという場所柄、専門的な資料や土器などの収蔵品が置いてあるところなので、清掃のなかで不意に触れてしまわないよう、破損や事故には細心の注意をはらっています。
また、特に気を付けているのは水回りです。気持ちよく使ってほしいので、洗面台、床が水浸しになっているとすぐに拭き取り、蛇口を

Q3 清掃員ならではのエピソードは
他の博物館や美術館に遊びに行ったときに、トイレがきれいかどうか気になって見に行ってしまうんです。一緒に行った主人に「トイレの評論家だね」と言われたこともあり、(笑)行った先の施設の方がどんな清掃道具を使っているかもチェックしてしまいますね。

Q4 やりがいを感じる時は
公園内は樹木が多くて、冬場は落ち葉を集めるのが大変ですが、綺麗に掃き終わると気持ちもスッキリとして達成感が得られます。
また、お客様が「いつもきれいにしてくれてるね」とか「落ち葉大変でしょ」と声をかけてくれたり、「このトイレいつもきれいなね」と話されているのが聞こえたりすると、とても嬉しいです。お客様が仕事ぶりを見てくださることが嬉しいとともに、常に見られている仕事なんだと思え、責任も感じます。



安祥文化のさとで
はたらく
人たちは
安祥文化のさと
「清掃員」

NEW ミュージアムショップ新商品

畳縁で作られた小物たち

畳の縁っているんなデザインがあるんですよ。その縁を使って、アクセサリや小物入れ、ティッシュケースカバーなどいろいろご用意しました。
なかでも畳の敷物は、花瓶置きやマウスパッド、鍋敷きなどいろいろな使い方ができます。これらすべて、スタッフの手作りなんですよ。
縁のデザインを活かしながらかつ作っているので、一つひとつ味わいが違います。ぜひ手に取ってみてください。



特別展 1964 - 東京五輪がもたらしたもの - 関連イベント

安城市歴史博物館からの
挑戦状 ちやう せん じやう
謎ときクイズラリーにチャレンジ!
聖なる火を守れ! まも
この夏、オリンピック会場に聖火を届けよう
クリアすると景品がもらえるよ!

きみ せいかに
君は聖火ランナーだ
かいさい きやうぎじやう せいかに
オリンピックが開催される競技場に聖火を
とど きみ しめい
届けることが君の使命
かすかす なんもん かんきやく ま かいじやう
数々の難問をクリアして、観客が待つ会場に
ぶじ せいかに とど
無事に聖火を届けてほしい

令和元年**7月20日(土)～9月1日(日)**
対象 **小学生以上** 参加費 **1キット/100円**
※グループでの参加OK ※別途、観覧料必要(中学生以下無料)
ナイトミュージアム期間中、時間帯により中止する場合があります。

**遊べる鉄道ジオラマ
新幹線を走らせよう!**
1964年に開通した東海道新幹線。鉄道ジオラマ内で走らせることができます。

**可愛くデコろう!
フォトフレームづくり**
特別展「1964」にちなんだ素材を可愛く飾って、フォトフレームを作ってみませんか。

1964年写真撮影コーナー
特別展「1964」にちなんだ写真撮影コーナーが登場。ぜひ写真を撮って楽しんでください!
※写真はイメージです

夜の博物館に行こう! **8/30(金)▶9/1(日)**
ナイトミュージアム
3日間限定開催
「幻灯空間」 [日時] 8月30日(金)～9月1日(日) 19:00～20:30
[場所] 市民ギャラリーエントランス
20:30まで開館延長!(※入館は20:00まで)

和紙で風船アート
膨らませた風船に和紙を貼り、丸いランプシェードを作ります。
当日受付

日時 **8/30(金)**
18:00～20:00
場所 市民ギャラリー 創作実習室
定員 80名(先着順)
参加費 1個200円
申込み 不要(当日17:30～整理券配布)
※満員の場合はお待ちいただくことがあります。

博物館ナイトツアー
懐中電灯を持って夜の常設展示をめぐります。昼間とは違ったドキドキ感をお楽しみに。
要申込

日時 **8/30(金)、8/31(土)**
各日①18:00～②18:30～③19:00～④19:30～
場所 歴史博物館2F 常設展示室
定員 各10名(先着順)
参加費 無料
申込み 8/7(水)9:00～電話受付開始
TEL:0566-77-6655

土器ドキ晩ゴハン
火きり杵と臼で火おこし、復元弥生土器でご飯を炊きあげます。弥生時代のご飯の作り方をみんなで体験!豚汁のふるまいも行います。
要申込

日時 **8/31(土)**
17:00～19:00
場所 歴史博物館前ピロティ
定員 家族またはグループ10組(1組5名まで/先着順)
参加費 1人100円
申込み 8/8(木)9:00～電話受付開始
TEL:0566-77-6655

歴博演芸場「格調高き昭和歌謡」
懐かしの昭和歌謡をピアノとバイオリンで演奏。懐メロをハイソサエティな雰囲気でお楽しみください。

日時 **8/30(金)** 19:00～20:00
場所 歴史博物館 エントランスホール
出演 甚目裕夫さん(ピアノ・語り)
蛭牟田実里さん(シンガー)
伊藤奈由美さん(バイオリン)
ゲスト 荒木とよひささん(作詞家)

特別展「1964-東京五輪がもたらしたもの-」夜間展示解説
本館学芸員による特別展「1964」の展示解説をおこないます。

日時 **9/1(日)** 19:00～
場所 歴史博物館 1F展示室
参加費 観覧料 一般400円(※中学生以下無料)
申込み 不要(当日ご来場ください。)

TOKYO 1964
東京オリンピックポスター(公式1号ポスター)
(本館蔵)